

2016年（平成28年） 11月11日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

10/27～11/2のNYMEX・WTIは、主要産油国の協調減産への懐疑論が広がり、49.72ドルから45.34ドルに値下がりし、9月28日のOPEC減産合意以前の価格水準に戻った。

11月3日は、前日の米国原油在庫の大幅な増加の報告に加え、主要産油国による協調減産への懐疑的な見方が一段と広がり、供給過剰感が高まったことから、5営業日続落した。12月限の終値は前日比0.68ドル安の44.66ドルだった。

週末4日も、前日からの地合いを引き継ぎ、売りが先行する中、ペーカーヒューズ社の米国稼働石油リグ数増加(450基、前週比9基増)の発表で、供給過剰懸念が一段と強まり、6営業日続落、9月20日(43.44ドル)以来1ヵ月半振りの安値を付けた。12月限は前日比0.59ドル安の44.07ドルで終了した。

週明け7日は、一転、前週の供給過剰感を背景とする売りが一服し、FBIのメール問題再捜査最終発表によるクリントン候補優勢との安心感もあり、大幅な買い戻しが入り、7営業日振りに反発した。また、パーキンズOPEC事務局長のアブダビ会合後の減産誓約確認の発言も、支援材料となった。12月限の終値は前日比0.82ドル高の44.89ドルとなった。

8日は、この日の米国大統領選挙の行方が注目され、売り買いが交錯する中、小幅に値上がりした。12月限の終値は0.09ドル高の44.98ドルだった。

9日は、前日から未明にかけての時間外取引でトランプ氏大統領当選確実の報に一時43.07ドルまで値下がりしたが、株式相場の大幅続伸等を背景に続伸した。12月限は前日比0.29ドル安の45.27ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(12

月渡し)は、前週44.40～48.20ドルの範囲で値下がり方向に推移した。4日は43.20ドル、7日は42.90ドル、8日は43.00ドル、9日は42.20ドルで推移した。

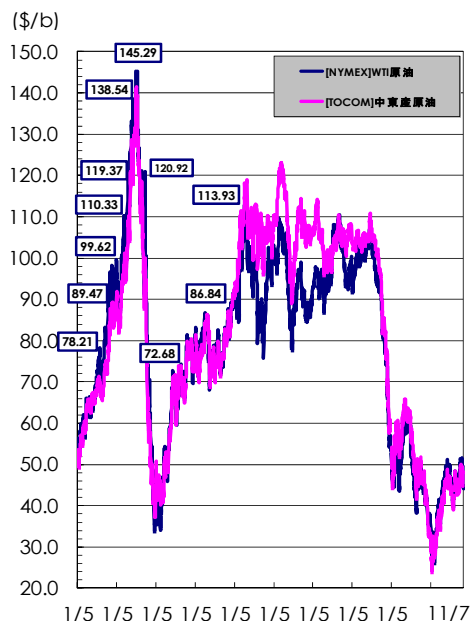
為替は、前週104.15～105.20円と狭い範囲でやや円安気味に推移した。4日は103.02円、7日は103.96円、8日は104.52円、9日は102.22円で推移した。

財務省が9日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、10月中旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比344円下げの28,630円/kl。ドル建てでは44.70ドルで前旬比0.68ドル安。為替レートは1ドル/101.82円。

主要元売会社の11月第3週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから3.0円の値下げとなった。原油価格は値下がりし、為替レートは円高、原油調達コストは値下がりだった。

そのような中で、11月7日時点の小売価格は、ガソリンが0.2円値上がりの126.5円、軽油は0.1円値上がりの105.1円、灯油は0.4円値上がりの65.8円だった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油も5週連続の値上がり、灯油は4週連続の値上がりだった。この週(11月第2週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は据え置きから4.0円の値上げに分かれた。

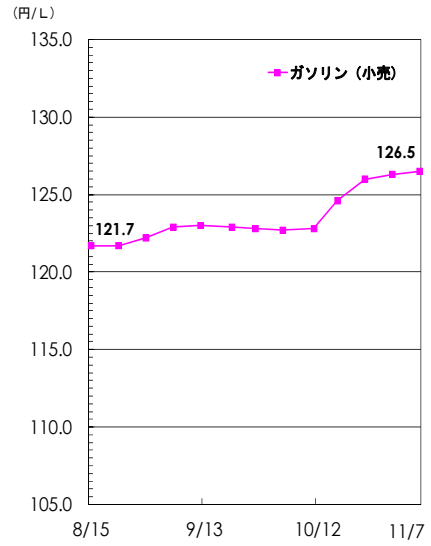
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/30 ~ 11/5	3,572 ▲ 412	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	84.7 ▲ 9.9	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	11/5	15,185 ▲ 362	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/7	43.74 ▼ -3.37	▼ -2.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/7	44.89 ▼ -1.97	▲ 1.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月中旬	44.70 ▼ -0.68	▼ -3.21
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	28,630 ▼ -344	▼ -7,531
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	101.82 ▼ -0.29	▲ 18.17
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/7	104.96 ▲ 0.90	▲ 19.35



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/30 ~ 11/5	1,038 ▲ 25	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	963 ▲ 16	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -44	▼ -	
	在庫	11/5	1,577 ▲ 75	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/1 ~ 11/7	43.8 ▼ -0.2	▼ -5.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/1 ~ 11/7	41.2 ▼ -2.3	▼ -7.6
		(TOCOM/中部)	11/7	40.5 ▼ -2.5	▼ -7.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/7	126.5 ▲ 0.2	▼ -5.7	

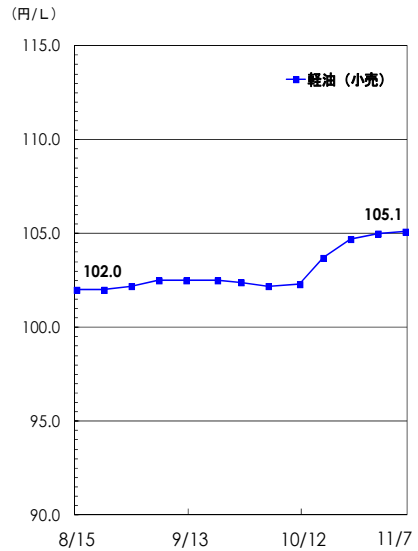
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

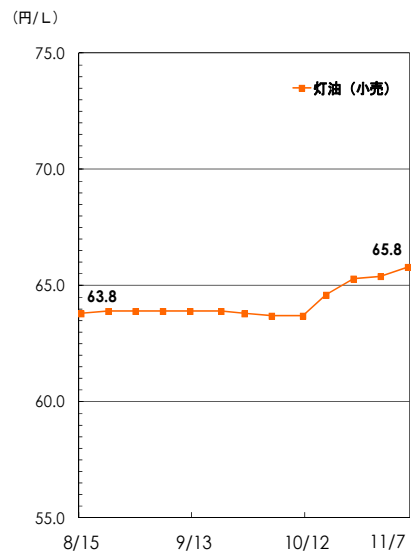
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/30 ~ 11/5	799 ▲ 48	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	700 ▲ 59	▲ -	
	輸出	"	57 ▼ -109	▼ -	
	在庫	11/5	1,456 ▲ 42	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/1 ~ 11/7	43.5 ▲ 1.7	▼ -5.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/1 ~ 11/7	41.0 → 0.0	▼ -4.2
		(TOCOM/中部)	11/7	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/7	105.1 ▲ 0.1	▼ -5.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/30 ~ 11/5	267 ▲ 50	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	362 ▲ 48	▼ -	
	輸出	"	50 ▲ 50	▲ -	
	在庫	11/5	2,574 ▼ -145	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/1 ~ 11/7	44.2 ▲ 1.7	▼ -3.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/1 ~ 11/7	43.5 ▼ -1.1	▼ -5.5
		(TOCOM/中部)	11/7	42.5 ▼ -1.5	▼ -6.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/7	65.8 ▲ 0.4	▼ -10.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

9日のNYMEX市場のWTI原油は、前日から未明にかけての時間外取引で、予想外のトランプ候補大統領当選確実の報に、一時、43.07ドルまで値下がりがりしたものの、朝方からの米国株式相場の急上昇など、トランプ氏への期待、上下両院で勝利した共和党への期待等が原油先物にも波及する形で、わずかながら続伸した。また、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫統計で、原油在庫が前週比240万バレル増と事前の市場予想(同130万バレル増)を上回り、ガソリン在庫が280万バレル減(市場予想100万バレル減)、中間留分は190万バレル減(同210万バレル減)の発表が

あったが、大きな影響はなかった模様。12月限の終値は前日比0.29ドル安の45.27ドル、1月限の終値は前日比0.33ドル高の45.94ドルだった。

EIAによると11月7日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比0.3セント値上がりの1ガロン2.233ドル(61.8円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.9セント値下がりの2.470ドル(68.4円/ℓ)。ガソリンは4週振りの値上がり、軽油は2週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、10月30日～11月5日に休止したトッパー能力は、20.6万バレル/日と前週に比べて42.1万バレル減少。(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は357.2万klと、前週に比べ41.2万kl増加。前年に対しては5.5万klの増加。トッパー稼働率は84.7%と前週に対して9.9ポイントの増加、前年に対しては4.0ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェットのみが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.5%増、ジェット/20.6%減、灯油/23.0%増、軽油/6.4%増、A重油/1.5%増、C重油/11.2%増。今週のC重油の輸入は7.1万kl(前週比4.0万kl増)。軽油の輸出は5.7万kl(前週比10.9万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではA重油のみが減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。原油価格が値下がりする一方で、小売価格は5週連続で値上がりとなる中、ガソリンの出荷は96.3万kl(対前週1.7%増)と2週振りに前週比で増加、6週連続で前年比で増加となり、9週連続で100万klを割った。

ジェット7.7万kl(対前週32.5%増)、灯油36.2万kl(対前週15.3%増)、軽油70.0万kl(対前週9.2%増)、A重油19.8

万kl(対前週10.8%減)、C重油26.8万kl(対前週5.4%増)。

(単位:千KL)

	今週 (10/30 ~ 11/5)	前週 (10/23 ~ 10/29)	前週比	
ガソリン	963	947	▲ 16	(2%)
ジェット燃料	77	58	▲ 19	(33%)
灯油	362	314	▲ 48	(15%)
軽油	700	641	▲ 59	(9%)
A重油	198	223	▼ -25	(-11%)
C重油	268	254	▲ 14	(6%)
合計	2,568	2,437	▲ 131	(5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月5日時点の在庫は灯油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェットのみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは157.7万kl、前週差7.5万kl増。前年に対しては9.0万kl少ない。

灯油は257.4万kl、前週差14.5万kl減。前年に対しては34.5万kl少ない。

軽油は145.6万kl、前週差4.2万kl増。前年に対しては6.1万kl少ない。

A重油は75.2万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては4.5万kl少ない。

C重油は186.4万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては44.1万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (11/5)	前週 (10/29)	前週比	
ガソリン	1,577	1,502	▲ 75	(5%)
ジェット燃料	1,045	977	▲ 68	(7%)
灯油	2,574	2,719	▼ -145	(-5%)
軽油	1,456	1,414	▲ 42	(3%)
A重油	752	735	▲ 17	(2%)
C重油	1,864	1,874	▼ -10	(-1%)
合計	9,268	9,221	▲ 47	(0.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月1日から11月7日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円高で、原油コストは値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン96~98円台、軽油43円台、灯油43~44円台で中間留分がやや値戻した。海上スポット価格は、ガソリン95~97円台、軽油43円台、灯油44~46円台で全般的には下値が切り上がった。先物価格はガソリン94~96円台、軽油41円台、灯油42~44円台で、原油価格の軟調を受け、後半値下がりした。元売の卸価格は据え置きから3.0円の値下がりだった。

EMGマーケティングは11月10日、11月12日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、一部を除いて概ね据え置き旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが値下がりし、卸価格も引き下げられたことから、製品スポット市況はガソリンを中心に軟調となった。週間のガソリン販売量は、9週連続で100万klを下回った。

11月第3週(11月10日~11月16日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(11月1日~11月7日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油は1.7円、軽油は1.7円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.5円、灯油は0.7円の値下がり、軽油は0.2円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが2.3円、灯油が1.1円の値下がり、軽油が横ばいだった。OPECの減産に対する懐疑的な見方が続き、原油価格は値下がり、為替も円高で原油コストは値下がりし、製品スポット価格も軟調となった。

11月第3週の大手元売の卸価格は、横ばいから3.0円の値下がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (11/1 ~ 11/7)	前週 (10/25 ~ 10/31)	前週比
スポット価格	レギュラー	43.8	44.0	▼ -0.2
	灯油	44.2	42.5	▲ 1.7
	軽油	43.5	41.8	▲ 1.7
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (11/1 ~ 11/7)	前週 (10/25 ~ 10/31)	前週比
先物価格	レギュラー	41.2	43.5	▼ -2.3
	灯油	43.5	44.6	▼ -1.1
	軽油	41.0	41.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/1~11/7実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.2	▼ -2.3	▼ -1.3
灯油	▲ 1.7	▼ -1.1	▲ 0.3
軽油	▲ 1.7	➡ 0.0	▲ 0.9
A重油	▲ 1.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月7日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値上がりの126.5円、軽油は前週比0.1円値上がりの105.1円、灯油は前週比0.4円値上がりの65.8円だった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油も5週連続の値上がり、灯油は4週連続の値上がりとなった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは27府県、横ばいは8県、値下がり12都道県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県121.5円(前週比横ばい)、次が千葉県122.3円(前週比0.1円安)だった。最高値は長崎県の135.1円(同0.5円安)だった。都道府県別で最も値上

がりしたのは、前週比2.8円高の岡山県(125.4円)で、最も値下がりしたのは0.7円安の北海道(125.6円)だった。

原油コストはやや値下がりしたが、5週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の元売会社の卸価格は据え置きから3.0円の値下がりだった。原油価格はさらに値下がりし、為替レートは円安であるものの、原油コストは値下がりとなったため、次週のガソリンの小売価格は値下がり、値上げが浸透していない灯油の小売価格は小幅な値下がりが見られる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (11/7)	前週 (10/31)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	126.5	126.3	▲ 0.2	08/8/4 185.1
	灯油	65.8	65.4	▲ 0.4	08/8/11 132.1
	軽油	105.1	105.0	▲ 0.1	08/8/4 167.4

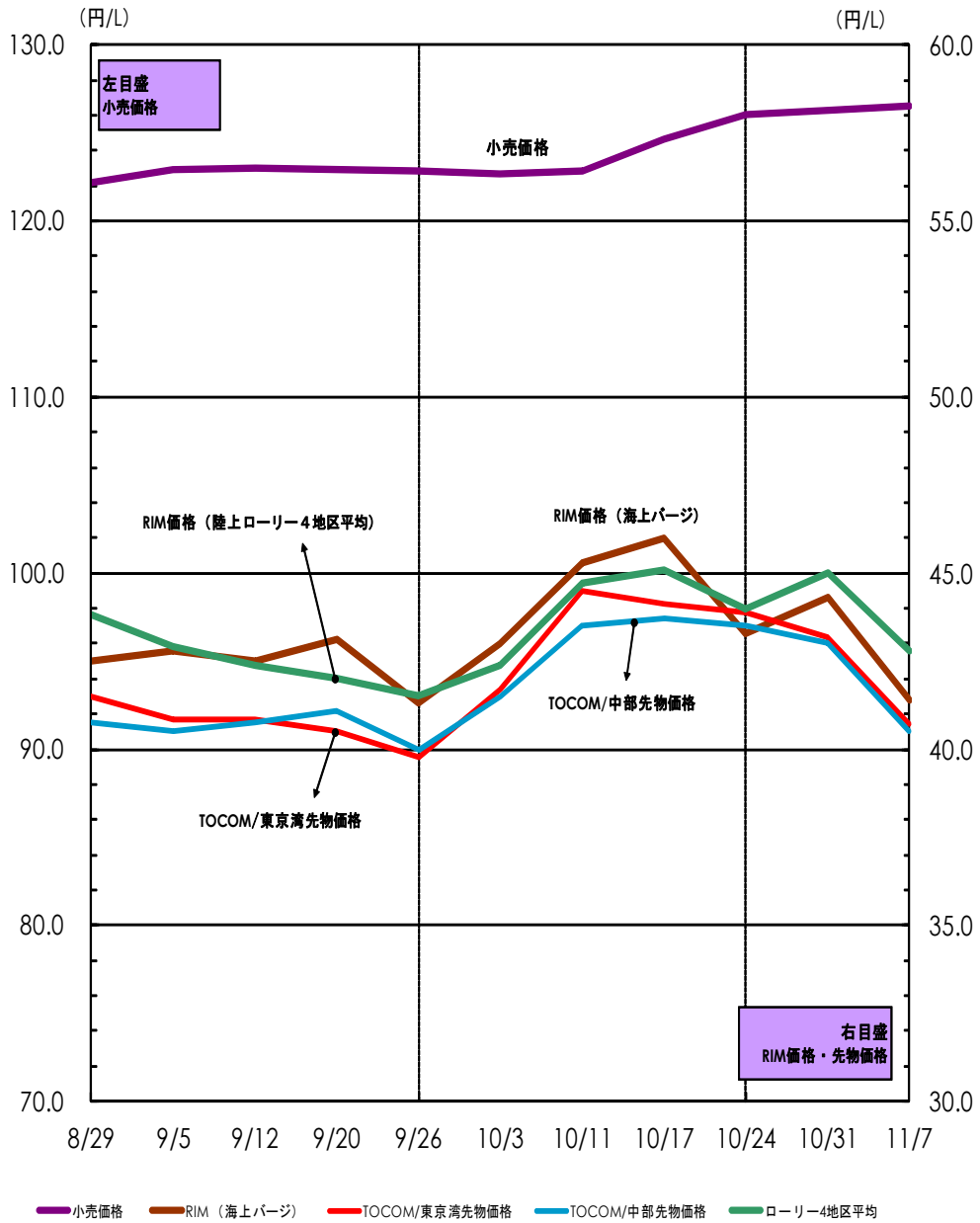
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/8/29 ~ 2016/11/7)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第32号)の公表は、11/18(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。